

白土 美恵子 議員

AIや人工衛星を活用した漏水対策について前向きに検討を!!

精度や費用対効果などを考慮し、活用について調査研究を進める。
AIや人工衛星を活用した漏水対策について、老朽化した管路については、漏水発生状況、布設年度、管種などを考慮し、更新する管路を路線ごとに選定して布設替えを行っている。

牛田 清博 議員

物価高騰による生活苦に対応し、学校給食費の軽減・無償化を

パンに除草剤の成分が残留しているデータがあるが、学校給食では有機農産物の取扱いを増やすべきと考えるが見解は。
大量の食材を安定して確保できないことや調理作業の負担など課題が多く、効果や影響について研究をしている。



安心・安全で栄養バランスのとれたおいしい学校給食を

計画的・継続的な教育指導が展開できる反面、受験競争の低年齢化や長期同一メンバーであるために学習環境になじめない生徒が生じることがある。
学校トイレに生理用品の設置をすべしと考えるが見解は。
保健室に来て相談する機会が減ってしまうことが考えられるため慎重に検討する。

パートナシップ制度を導入した自治体は国民人口の52%になり、刈谷市も制定すべきと考えるが見解は。

鈴木 浩一 議員

暴雨被害を防ぐ雨水対策マスタープランの進捗管理の徹底を!!

河川施設整備や下水道施設整備などのハード対策の進捗状況は。
河川施設整備で、準用河川草野川の5年確率降雨に対する改修事業を行っているほか、下水道施設整備で、吹戸川流域の貯留施設及びバイパス管路整備が完了している。また、流出抑制施設整備で、富士松東小学校のグラウンドを活用した表面貯留施設、洲原池の余水吐の改築による貯留施設の整備などが完了している。岩ヶ池の貯留施設の整備を進めており、今年度末の完成予定である。



現在、5年確率降雨に対応する整備が行われている準用河川草野川

書かない窓口が全国的に急速に増加しているがどのような事例があるのか。
マイナンバーカードを利用し、申請書や届出書を自動作成する方法や事前に自宅でインターネットから手続をして、来庁時に二次コードを提示することで申請書等が自動作成される事例などがある。市民の方の記入に係る負担が軽減される反

新海 真規 議員

「書かない窓口」の導入により、市民の利便性の向上を!!

度から327件も減少している。令和3年度猫の死体回収の委託件数は、最も多い平成27年度から143件も減少している。団体の存在があるからだ。制度の見直しと補助額の拡充をしながら更新を行っていく。

蜂須賀 信明 議員

小中学校における交通安全教育の推進を!!

通学路における交通安全を確保するため、警察、教育委員会及び学校等が連携し、定期的な点検が実施されている。この点検における市内小学校区内の危険な通学路は、何か所存在するのか。
対策が必要であると判断し、県へ報告した通学路は35か所である。

城内 志津 議員

地域猫活動補助制度の見直しと補助額の拡充を!!

地域猫補助制度の効果はどのようか。
地域猫活動を行う団体が増え、適正な不妊・去勢手術が行われ、野良猫の抑制が図られているものと考えている。

星野 雅春 議員

魅力ある公園やまちづくりのための環境整備を!!

最近の動向として、各地でキッチンカーの出店やマルシェの開催など、公園を活用したイベントが多く開催されている。本市で行った実証実験の目的やその成果は。
キッチンカーの移動販売やマルシェの開催により、公園

国による法的な整備が望ましいと考えるため、国や県の動向等を注視しつつ人権が尊重されるまちづくりを努める。

稲垣 雅弘 議員

依佐美送信所記念館及び魅力ある依佐美送信所記念館は!!

依佐美送信所記念館のボランティア活動についてどのようように受け止めているか。
依佐美送信所記念館は、学界や地元市民から産業遺産としての保存を希望する活動が盛り上がり、平成19年4月に開館した。地元市民の活動が依佐美送信所記念館ガイドボランティアの会の発足につながり、同年8月には、展示されている高周波発電機が一般社団法人日本機械学会から機械遺産の認定を受けたことをはじめ、送信装置一式が重要科学技術史料に登録された。また平成20年には、依佐美送信所が日本で9例目となるIEEEマイルストーンに認定された。ガイドボランティア

佐原 充恭 議員

次世代自動車購入費補助制度のさらなる拡充を!!

刈谷市が独自に実施している次世代自動車購入費補助制度は、個人用も事業用もリースは対象外となっているが理由は。
リースやサブスクリプションは、車両の仕様や利用権を得るサービスの一つであると考えられているため、現在は補助対象としていない。
次世代自動車は、普及のさらなる拡充を望む。
市内では、名古屋市、豊橋市及び豊田市がリース等に対する補助を実施していることを把握している。今後、次世代自動車の普及に向け、販売方法の多様化も進んでくると考えられるため、他市の状況等も参考にしながら、市民ニーズに対応した補助制度を検討していく。
カーボンニュートラル達

上田 昌哉 議員

特性の有無に関わらず子供たちの良い面を伸ばす対応を!!

子供の数は減少しているのに、障害のある子供が増えているように思うが、小中学校の特別支援学級に通う児童生徒の過去5年の人数は。
各年度5月1日時点で、2011年は178人、2016年は201人、2021年は252人である。
見ただけでは分かりづらいが、グレーゾーンの児童生徒が増えていると感じるが、特別支援学級の児童生徒数が増えている要因をどのように考えているか。
障害について広く認知されるようになり、個別の支援を必要とすることに對する保護者の理解が深まったことが考えられる。

谷口 睦生 議員

ヤングケアラーの早期発見と関係機関との連携で支援の推進を!!

小中学校の現場において、ヤングケアラーをどのように把握しているか。
日々の健康観察、子供との対話、毎日の生活日記、学期ごとに1回行う生活アンケート、子供との個別面談などから、ヤングケアラーに限らず子供たちの心の変化などを把握している。
ヤングケアラーを把握した場合の学校の対応方法は。
子供たちの様々な心配事に気付いた際には、学年職員や学校全体で話し合い、状況を共有し、必要であれば、適切な支援が受けられるよう、市の関係部署や児童相談センターなどの関係機関と連携を図っている。

谷口 睦生 議員

ヤングケアラーの早期発見と関係機関との連携で支援の推進を!!

介護認定調査などの際に、対象者の主たる介護者や家族の状況を確認し、必要に応じて関係機関へ情報提供をしている。



一人一人の実態に応じた教育を



公園を活用したマルシェの開催等の環境整備を



ヤングケアラーの早期発見と関係機関との速やかな連携を